

清流通信「四万十川物語」

第32章 (H11.11.10)

送信者：高知県四万十川対策室
tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

「四万十なんでも辞典」作成中！

～四万十川(流域)に関する質問大募集～

四万十川の名前の由来は？ 沈下橋とは？
源流点はどこにある？ 迷わずにたどり着けるだろうか？
四万十川の魚は何種類？ 伝統漁法とは？
「あかめ」に会いたい！ 「牛鬼」、「舟母」って何？ などなど

四万十川に関する疑問・質問があるけれど、本を見ても載っていない、どこに問い合わせればいいのかわからない…。皆様にも、きっとこんな経験があると思います。四万十川対策室では、このたび四万十川に関する「なぜ」、「なに」になんでも答えてくれる辞典を作成することになりました。

この「四万十なんでも辞典」は、A5サイズ、約140ページ、四万十川や支流に関する各種データ、自然、くらしと風景、民俗・歴史、文化、観光・レジャー、四万十川保全の取り組みなど、あらゆる分野を網羅する予定で、来年3月の完成を目指して作業中です。↗



♪ 名実ともになんでも答えられる辞典にするために、皆様からの情報を募集します。四万十川(流域)に関する質問や、「このことを取り上げたらいいのでは」という提案をお持ちの方は、ぜひ一報ください。よろしく願いいたします。

*恐れ入りますが、情報提供は11月末日までお願いいたします。また、紙面の都合上、お寄せいただいた質問を全て取り上げられない場合もありますので、あらかじめ御了承ください。

四万十川の新刊

『四万十 川がたり』(山と溪谷社 野村春松：語り、蟹江節子：聞き書き)

四万十川下流域、西土佐村口屋内地区にお住まいの野村春松さん(84歳)は、生まれてからずっと四万十川のほとりで生活を営む、正に四万十川の生き字引のようなお方で、「四万十川のおじいちゃん」と慕うファンが全国にいます。著書には、四万十川とともに生きてきた野村さんの四万十川に対する想いが優しく語られています。「四万十 川がたり」は全国書店で発売中です。(定価1,500円〈税別〉)

「四万十川清流を育む森づくり」

- ◎主催 ミナル・クラブ(四万十フルタイム倶楽部会員)
- ◎日時 平成11年11月28日(日)(雨天決行)
- ◎場所 高知県高岡郡窪川町平串
- ◎参加資格 10歳以上。(小学生以下は保護者同伴)
- ◎参加料 一般1,500円(中高生以下無料)
- ◎実施内容 第1部：植樹体験 第2部：四万十ふれあい紀行(いも炊き会、記念撮影など)
- ◎問い合わせ ミナル・クラブ事務局(0889)-42-6685

次章(12月10日発売)は、「四万十川(流域)の2000年問題」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第33章 (H11.12.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

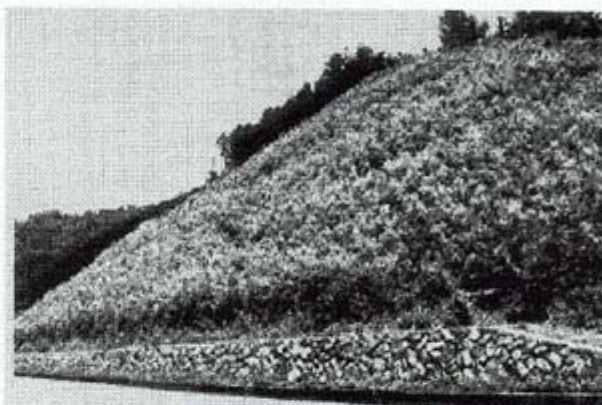
四万十川構造令

～四万十川の土木工事手引書～

高知県は、四万十川流域で施工する土木工事に対して、景観・生態系に配慮する「四万十川流域土木工事手引書」（通称：四万十川構造令）を作成しました。

この四万十川構造令の柱は次の3本です。

- ①コンクリート面及び裸地面を露出させない景観と調和した工事
- ②自然植生の速やかな復元を図る工事
- ③生態系への細やかな配慮ある工事



●木の香る道づくり事業(窪川町一斗俵)
～道路改良による擁壁の緑化～

これまでの四万十川流域の土木工事は、コンクリート面がむき出しになった擁壁や、生態系への配慮が少ない道路の拡張工事など、四万十川の魅力を失ってしまうものが多くありました。

この手引書は、四万十川を管轄する土木事務所、高知県関係課室、流域8市町村で構成する「四万十川流域土木工事協議会」が、四万十川流域の基本指針「清流四万十川総合プラン21」実現の一環として作成したものです。

対象は、四万十川と黒尊川、目黒川など4つの支川周辺で「川から見通せる範囲」ですが、対象区域外でも景観・生態系上重要な河川については手引書の適用を検討していきます。

この手引書を施工業者に配布し、業者によって工法が異なっていたものを、設計段階から統一することができ、「四万十川らしい」景観や生態系の保全が図られることになります。

四万十川良心市場

四万十川流域生産グループが、「地元産」にこだわりながら真心込めてご提供する四万十産品の数々。米、椎茸、味噌から皮むき包丁、川舟までバラエティーに富んだ品揃えで、全国発送いたします。年2回の会報誌をお届けする「RIVER」の会員も随時募集中です。(年会費3千円)

四万十川良心市場、「RIVER」のお問い合わせは、
㈱四万十ドラマ TEL0880-28-5527 FAX0880-28-4875

「四万十なんでも辞典」質問募集!!

四万十川対策室では、四万十のことならこの1冊で万全。そんな「四万十なんでも辞典」を2000年3月完成に向けて作成準備中です。ただ今、四万十川(流域)に関する様々な疑問、質問を12月15日まで募集しています。期限まで残りわずかですが、どんどんお寄せください。手紙、FAX、E-mailいずれでも構いません。ご協力をお願いします。

次章(1月10日発行)は、「年頭に想う」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第34章 (H12.1.10)

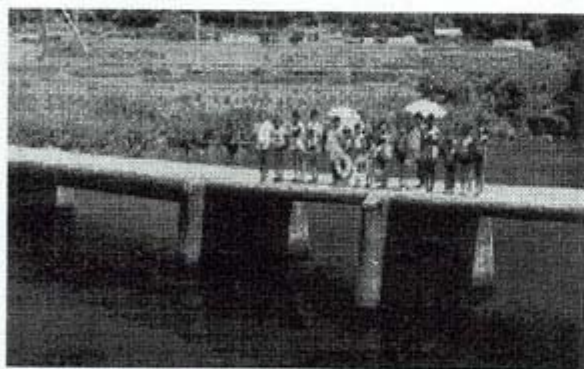
送信者：高知県四万十川対策室
tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

38沈下橋を重点保存

～第1種、第2種区分を決定～

四万十川の風景を代表する「沈下橋（ちんがばし）」。「欄干が無く、洪水の時には水面下に沈み、四万十川の流れに逆らわない、まさに自然と共存している橋。高知県と流域市町村では、「四万十川沈下橋保存方針」を策定し、管理者が明らかな沈下橋47橋について、生活文化遺産として後世に残していこうとしています。

このほど、特に重点的に保存する第1種沈下橋の選定作業を行っていた「四万十川沈下橋保存委員会（委員長：福留西日本科学技術研究所長）」が開かれ、本流と支流合わせて38橋を第1種沈下橋としました。



●昭和10年建設の一斗俵沈下橋(窪川町)

委員会では、1年以上にわたる現地調査や流域住民の方の意見を参考に、景観・文化・親水・観光などの観点で第1種と第2種沈下橋に区分したものです。

第1種沈下橋には、戦前に架けられた沈下橋のなかで唯一現存する窪川町の「一斗俵沈下橋」や、ユニークなデザインで知られる大正町の「向山沈下橋」をはじめ、流域の生活や景観にとけ込んだ沈下橋が選ばれています。

今後、第1種沈下橋は管理者が重点的な維持管理を行い、災害などで壊れた場合にも原型復旧を原則として後世に残していくこととなります。高知県としても、維持管理について支援を行い、国に対しても支援要請をしていきます。

会員募集のお知らせ

四万十川沿いの休校となった小学校を活用した自然体験型交流施設「(社)四万十楽舎」では現在、会員を募集中です。会員の方には宿泊料の割引や定期的な情報誌の送付などいろいろな特典があります。

四万十楽舎に関するお問い合わせは、(社)四万十楽舎(山下さん)

TEL0880-54-1230 FAX0880-31-9788

「都市・農山村の生態学的再生」研修会

◎日時 平成12年1月14日(金) 10:30～15:30

◎場所 高知市旭町3丁目115番地

こうち女性総合センター ソーレ

◎講師 福留脩文氏(西日本科学技術研究所 代表取締役)

◎参加費 無料

◎主催 高知県

◎問い合わせ先 高知県四万十川対策室(山崎、西森)

TEL(088)-823-9795 FAX(088)-823-9296

次章(2月10日発行)は、「(財)四万十川財団」を予定。

清流通信「四万十川物語」

第35章 (H12.2.10)

送信者：高知県四万十川対策室
tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

四万十大使、宮崎美子さん初の著書出版

四万十大使にご就任いただいている女優の宮崎美子さんが、芸能活動20周年を迎えられ、これを機に初のエッセー集「生きものへの礼儀」を出版されました。宮崎さんは現在NHKの「生きもの地球紀行」のナレーター兼レポーターを務められており、自然や環境問題に深い造詣をお持ちの方です。この本では、これまで番組で扱ってきた世界各国の自然や生き物に対するメッセージが優しい視点で語られています。

四万十川についても「大らかな母親のような大河」、「流域住民と密接に結びあっている川」として紹介されています。

「生きものへの礼儀」は、光文社より全国書店で発売中です。

「四万十川ファンド」エコーはがき発売！！

四万十川の清流保全のために活用される基金「四万十川ファンド」のPR用エコーはがきが3月1日、高知県内と神戸市内の郵便局で発売されます。

これは、基金を管理する四万十川総合保全機構（四万十川流域8市町村）が、四万十川ファンドへのさらなる全国的なご支援、ご協力をいただくために、企画したものです。

エコーはがきには、代表的な四万十川の風景である西土佐村の「岩間沈下橋」の写真が使われています。（額面1枚45円）



●エコーはがきの広告部分

ご購入とともに、ファンドへのご協力をよろしくお願いいたします。

只今募集中！！

①四万十川源流点の森づくり

- ・開催日時／平成12年3月5日(日) 10:30～15:00
- ・開催場所／四万十川源流点周辺（高岡郡東津野村船戸国有林「郷土の森」）
- ・実施内容／a. 杉、竹などの広葉樹の植樹
b. 植樹場所周辺の針葉樹の枝打ち
- ・交通／高知市から会場まで送迎バスがです。
- ・問い合わせ先／東津野村役場産業建設課（吉村さん）TEL0889-62-2311 FAX0889-62-3519

②第12回Tシャツアート展作品募集

- ・大方町入野の浜で平成12年5月3日～7日まで開催されるTシャツアート展のTシャツのデザイン画を募集中。応募資格はプロアマを問わず。
- ・応募作品はすべて主催者がTシャツでカーブプリントして砂浜に展示。審査員：岩合光昭（写真家）
- ・応募締切は、平成12年3月10日。（当日消印有効）問い合わせは、砂浜美術館事務局 TEL/FAX兼用0880-43-4915

次章(3月10日発信)は、「四万十川はどこへ行く？」を予定。

清流通信「四万十川物語」

号外 (H12.3.1)

送信者：高知県四万十川対策室
tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

「ダックレースin四万十2000」開催!!

四万十川中流域の幡多郡西土佐村で、おもちゃのあひるレースが開催されます。主催の「ダックレースin四万十実行委員会」では、このレースにエントリーするあひるの飼い主を募集中です。コースは西土佐村江川崎付近の四万十川で、上位入賞者には、道後温泉ペア宿泊券ほか、西土佐村の特産品等が贈呈されます。エントリー料は1羽500円で、収益の一部は四万十川保全のために活用されます。テレビ「THE鉄腕DASH」でおなじみのアヒル隊長も参戦します。皆様ふるっつのエントリーをお待ちしております。

「ダックレースin四万十2000」実施要項

- ①日 時 平成12年3月14日(火)雨天決行(ただし洪水の場合は中止)
10:00～ カヌー・サイクリング無料体験
13:30～ 開会式 14:00～ レース開始
 - ②コース 西土佐村江川崎付近(四万十川)
 - ③参加資格 実行委員会の指定するあひる購入者
 - ④エントリー料 1羽あたり500円(何羽でもエントリーできますが、レース後のあひるは原則としてお返ししません。)
 - ⑤エントリー方法
 - A. 西土佐村へ行ってエントリーする。
西土佐村観光協会カヌー館、JA大宮出張所、口屋内味の館で登録ナンバーを販売します。あひるは、西土佐村観光協会カヌー館でエントリーされた方のみお渡しします。(当日参加できない方は、登録ナンバーのみお渡しします。)
 - B. お近くのJR四国の窓口でエントリーする。
JR四国の主要駅、ワフプラザで受け付けます。申込み用紙にお名前と住所と電話番号をご記入ください。参加料と引換に登録ナンバーをお渡しします。(あひるはお渡しできません。)
 - C. 郵送でエントリーする。
1. お名前、住所、電話番号を記入した用紙 2. レース参加料 3. 登録ナンバーを返信するためのはがきを同封のうえ現金書留で下記の宛先までご郵送ください。後日登録ナンバーをお送りします。(あひるはお渡しできません。)
- 宛先(お問い合わせ先)
〒786-0603 高知県幡多郡西土佐村用井1111-11
西土佐村観光協会内
「ダックレースin四万十」実行委員会事務局
TEL0880-52-2121 FAX0880-52-2424
- ⑥申込期間 平成12年3月10日(西土佐村観光協会では大会当日午前中まで受け付けます。)
 - ⑦その他 当日は、JR江川崎駅～大正駅でトロッコ列車が運行します。
乗車には座席指定券が必要です。
最寄りのみどりの窓口、ワフプラザ、旅行代理店でお求めください。



清流通信「四万十川物語」

第36章 (H12.3.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 E-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

満5歳を迎えた四万十川対策室

～21世紀戦略づくりへ再スタート～

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。

今、四万十川は菜の花が満開。水辺には柳がそよ風にゆれています。毎年繰り返される春の訪れ。この穏やかな情景がいつまでも続きますように…！

さて話は変わりますが、「四万十川対策室」は、今年4月で満5歳を迎えます。誕生以来、「四万十川を守りながら、地域住民にとって、高知県民にとって、また全国の方々にとって最もいい方向とは？」を模索してまいりました。

その結果、保全のための土台づくりはほぼ完成（四万十川条例づくりが残っていますが…）し、2000年度からは、土台のうえに立って、自然や清流を活かした地域づくり戦略を立てる新たなステップへ移ってまいります。その具体的戦略の1つが「四万十まるごと博物館整備構想」です。（現在、予算要求中）

読者の皆様は、「四万十川のどこに行ったらいいのかわからない。」と感じたことはありませんか？

現在流域では、屋形船、トンボ公園の他にも、四万十ウルトラマラソン、四万十りんりんサイクルが企画実践され、今年は四万十川の景観にマッチした「沈下橋」の「歩行者天国（月1回、車の乗り入れを制限する）」も試みます。

しかし、全てが『点』のままとなっています。「四万十まるごと博物館」は、これらを『点から線』へとつなげていこうとするものです。具体的には、流域の

自然、清流、歴史、文化、人、山・川の幸等々の資源を発掘し、道の駅などの情報拠点や「自然の案内人」登録などを進め、21世紀の新しい観光戦略を立案します。『保全をベースとした活用。活用するためには保全』。これら両者のバランスがとれた時、四万十川は人々の目の中、心の中にいつまでも焼きつけられることでしょう！



●情報拠点施設候補例（西土佐村カヌー館）

ふるさと絵はがき「清流 四万十」発売

四万十川流域の風景を題材にした、ふるさと絵葉書「清流四万十」が、平成12年3月8日に四国内の郵便局で一斉発売されました。販売価格は、7枚1セットで350円です。絵柄は四万十川流域7町村の代表的な風景で、中村市在住の画家、野村ナナミさんが描いたものです。通信販売も扱っておりますので、四国外にお住まいの方もぜひご購入ください。

ふるさと絵葉書についてのお問い合わせは、

四国郵政局郵務部営業課 原嶋さん TEL 089-936-5205 まで

次章(4月10日発信)は、『(財)四万十川財団が本格始動』を予定

清流通信「四万十川物語」

第37号(H12.4.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

(財) 四万十川財団が本格始動

～21世紀に向けた四万十川の保全活動のはずみに～

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。

今、四万十川流域でも桜の花が咲き乱れています。春の訪れを感じさせる光景です。みなさまはお花見には行かれましたか？

さて、このほど高知県と四万十川流域8市町村は共同で(財)四万十川財団を設立しました。

設立のねらいは、これまではややもすると行政主導になりがちであった四万十川の保全について、産・学・民・官の連携のもとに四万十川にかかわる一人一人がその役割を認識し、流域全体で総合的な力を発揮できるような体制に転換することにあります。

そして、もちろんのことですが、四万十川保全への支援を行ってくださる全国の方々とも連携し、事業の展開を図ることのも一つのつです。

また、これまで全国の皆様に募金をいただいております「四万十川ファン」は、流域の市町村で構成する「四万十川総合保全機構」で管理を行ってまいりましたが、四万十川財団に移管し、新たに「四万十川基金」と名称を変更し管理を行ってまいります。

全国の皆様方の一層の御支援を今後ともよろしくお願い致します。



【財団法人 四万十川財団】

〒786-0013 高知県高岡郡窪川町

琴平町3-14

tel: 0880-29-0200

fax: 0880-29-0201

※E-mailアドレス ホームページ

現在準備中です

開所時間: 8:30～17:15

土日祝日は休みです

四万十川基金(ｼﾌﾄｶﾞﾐﾅﾐ)

四国銀行窪川支店

(普) 0331175

池田高知県文化環境部長

中越副理事長

new!

『人と自然の共生モデル事例集』『四万十なんでも事典』が完成

四万十川流域内の環境に配慮した事業や事例等を集めた『人と自然の共生モデル事例集』と四万十川についての質問に答える『四万十なんでも事典』がついに完成。

事例集をご希望の方はA4サイズ以上の封筒に240円分の切手を、なんでも事典をご希望の方はB5サイズ以上の封筒に270円分の切手を、両方をご希望される方はA4サイズ以上の封筒に390円分の切手をお貼りのうえ、郵便番号・住所・氏名を記入し、四万十川対策室までお送りください。なお、直拍四万十川対策室まで取りにおいていただいた方には、無料で進呈させていただきます。

(部数に限りがございますので、勝手ながら各々先着1000名様までとさせていただきます)

高知県四万十川対策室: 〒780-8570 高知県高知市丸ノ内2-4-1

次号(5月10日発行)は「21世紀の扉を開けて～高知大学教育学部付属小学校の取り組みについて」を予定

清流通信「四万十川物語」

第38章(H12.5.10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

21世紀のとびらを開けて

～高知大学教育学部附属小学校の取り組み～

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。

ゴールデンウィークも過ぎましたが、みなさん元気でお過ごしでしょうか。四万十川流域も連休中はたくさんのお客を迎え、連日大変なにぎわいを見せていました。

今回は高知大学教育学部附属小学校の6年生が作った小冊子「21世紀のとびらを開けて」について、お知らせします。

この小冊子は、昨年、高知大学附属小学校の6年生120人が高知県の県政について約半年をかけて取材を行ったもので、自分達が興味を持った事柄を調べるため、自分達で県庁の各課で取材を行ったものです。行政の取組みの内容や自分たちの感想がまとめられています。四万十川対策室へは12人の子供達が四万十川に関心を持って取材に来てくれました。

どのようなことに一番興味を持っているのかと小冊子を見てみると、やはり一番の関心は川の汚れのよう。空き缶のポイ捨てについて書いたものや、家庭排水や畜産の糞尿についてふれたもの、道路工事についてのものもありました。中には「森林の適正な管理とはだれがどのようなことをしているのかなと思った。」など流域の保水力の向上について鋭い視点で切り込んだものもありました。

子供達も四万十川の清流保全の大切さを敏感に感じていることが分かる内容でした。環境保全に対する子供達の意識がどんどん広がって、清流四万十川が次の世代に引き継がれるよう努力する決意を新たにしました。



四万十なんでも事典配布終了

前号でお伝えしました、四万十なんでも事典の郵送につきまして、当初予定しておりました1000名を超える方々から申し込みがありましたので、締め切らせていただきます。予想以上の反響と皆様からの温かいご声援、どうもありがとうございます。

なお、発送作業が若干遅れ気味となっております。申し込んでいるのにまだ届いていない方は、申し訳ありませんがもうしばらくお待ち下さい。

event情報!

6月4日 橘原町にて、四国神楽(かぐら)大会・土佐牛まるがじり大会があります。四国神楽大会は入場無料。土佐牛まるがじり大会は入場券が必着です。前売り券についてのお問い合わせは下記まで。開催場所は両方とも橘原町太郎川公園です。

問い合わせ先

土佐牛まるがじり大会:

津野山農業協同組合

0889-65-0329

四国神楽大会:

橘原町教育委員会

0889-65-1111

次章(6月10日発行)は「四万十カーヌー工務」を予定

四万十大使に椎名誠さん就任

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。
梅雨の季節となりましたが、みなさん元気でお過ごしでしょうか。
この時期、四万十川流域でも蛍をみかけます。日頃の蛍光灯に慣れた目で蛍の光を見ても、何か不思議な感じがしませんか？

今回は「四万十大使に椎名誠さん就任」と「カヌー工房」についてお伝えしようと思います。

作家、そしてアウトドア活動をはじめとする幅広い分野で御活躍の椎名誠さんが、四万十大使にご就任されました。俵万智さん、宮崎美子さん、山本容子さんに続いて4人目、男性では初めての大使です。

四万十大使は著名人の方々に知事が委嘱し、県民、国民の共有財産である「四万十川」への支援を全国に呼びかけていただくことを目的としています。大使の「報酬」は、心ばかりの四万十川の「天然アユ」となっています。

椎名誠さんは、第一回映画監督作品として四万十川を舞台とする「ガクの冒険」を製作されたり、これまでに10回以上も四万十川を訪れカヌーを楽しまれるなど、四万十川に対する関心も深く、そのようなご縁がきっかけとなって大使就任が実現したものです。



手作りカヌーへの招待



四万十川対策室では、カヌーや木工品を手作りできる「体験型工房」ができないか検討しました。これは、昨年度四万十川流域の方々にお願ひして研究を重ねていただいたものです。

工房のあり方としては、カヌーと木工品の製作、キット販売と自然を身近に感じられるカヌー体験を組み合わせたものとし、四万十川流域一体で「遊ぶ・学ぶ・創る」という自然体験を楽しめる仕組みづくりが必要との報告がありました。

また、地元のスギ集成材等を使って、実際にカヌーを製作していただきました。製作した3艇のカヌーは大正町の「道の駅」や「オートキャンプ場ウェル花夢」、西土佐村の「四万十楽舎」で展示しております。木のぬくもりの伝わる美しいカヌーですので、是非一度ご覧ください。

今後は、研究いただいたグループが中心となって工房の実現に向けた活動が続けるほか、手作りカヌーの交流会なども計画しています。

地元産材料での手作りカヌーで四万十川がにぎわう日をめざしてがんばりたいと思います。取り組みへの、御声援・御協力をよろしくお願いいたします。

第40章（H12.7.10）

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

四万十大使に畠山重篤さん就任

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。

前回予告しました「こどもを川にもどす提言」の予定を変更し、今回は「四万十大使に畠山重篤さん就任」をお伝えします。

宮城県気仙沼で、牡蠣の養殖をされている皆さんでつくる「牡蠣の森を慕う会」代表の畠山重篤（はたけやま しげあつ）さん。高知県は、畠山さんに四万十大使を新たにお願いしました。畠山さんは、海に注ぎ込む川、さらにその上流の森の働きが海の生き物を育てていることに気づき、「森は海の恋人」運動を展開されています。県境を越えた植樹活動を12年間続けられる傍ら、上流域の子どもたちを海に招き、環境教育の体験学習も行うなど、幅広い実践活動を行ってられます。



今回の四万十大使就任は、四万十川フォーラム21（平成8年：中村市）にパネラーとしてご参加いただいたことや、宝酒造さんと官民一体で展開してきた「四万十川の清流を守ろうキャンペーン」のなかで、清流の森づくりに対するエールをいただいたことをきっかけに実現したものです。

ご夫妻で出席いただいた6月21日の就任式では、橋本知事から委嘱状と大使の名刺をお渡しして今後のご支援をお願いしました。畠山大使から「どんな川が流れているかは、そこに住む人々の民度を示す。」といったご指摘や「川の環境を守っていくためには森や海を含めた全体への視点が必要。四万十川河口で漁業をする人やホエールウォッチングをする人たちに呼び掛け、連携できれば…」との抱負が、また、橋本知事からは「畠山さんのこれまでの経験やノウハウを四万十川に教えて欲しい」などといった話がありました。

四万十大使は、俵万智さん、宮崎美子さん、山本容子さん、椎名誠さんに続いて5人目の大使となります。

トピックス

○四万十川一斉水質調査

「四万十川の日（7月25日）」の記念行事として、7月3日から7月中旬にかけて、四万十川本流及び支流73箇所において、四万十川流域8市町村の小中学生約300人（22校）による水質調査が行われます。

主催・お問い合わせ先：（財）四万十川財団 電話：0880-29-0200

次回（7月23日発信）は『森は海の恋人』を予定

第41章 (H12. 7. 23)

送信者: 高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

森 は 海 の 恋 人

清流通信「四万十川物語」の読者のみなさんこんにちは。

今回は、平成12年7月25日に行われる「四万十版「森は海の恋人」意見交換会」についてお伝えしたいと思います。

「森は海の恋人」、これは宮城県の気仙沼湾で牡蠣の養殖に従事され、先に5人目の四万十大使になっていただいた「牡蠣の森を慕う会」の代表、畠山重篤さんが1994年に出版された本の題名で、畠山さんのグループが山に木を植え始めたときに、歌人の熊谷龍子さんが森と海の大変魅力的に表現した言葉です。

四万十版「森は海の恋人」意見交換会は、こうした県外の漁業関係者による先進的な取組みを理解し、今後本県においても漁師さん達による山への植樹を定着させる契機とするため、7月25日の「四万十川の日」に四万十川河口沿岸部の漁業関係者の方々が集まって、四万十川とクジラの関わりや森と川と海のつながりについて考えていこうという行事です。

当日は、森と川と海のつながりを科学的に研究、実証されている北海道大学水産学部、松永勝彦教授の「森と川と海のつながり」と題した基調講演や、畠山四万十大使の「漁師が山に木を植える理由」と題した先進取組み事例の発表が行われます。

また、会の後半には、松永教授と畠山大使のお二人に、地元の(社)高知県森と緑の会の坂本耕平さんや砂浜美術館の水野聖子さん、入野漁業協同組合の澳本健也さんを交えた意見交換会が行われます。会場は、大方町入野のふるさと総合センター、開始時間は午後1時30分となっています。

なお、秋には、この意見交換会に参加いただいた四万十川河口沿岸部の漁業関係者の方々を中心に、四万十川流域への植樹活動も予定しています。

○ 基調講演 (13:40~14:30)

北海道大学水産学部教授 松永勝彦さん
—森と川と海のつながり—

○ 取組み事例発表 (14:30~15:20)

「牡蠣の森を慕う会」代表 畠山重篤さん
—漁師が山に木を植える理由—

○ 意見交換会

北海道大学水産学部教授	松永勝彦さん
「牡蠣の森を慕う会」代表	畠山重篤さん
(社)高知県森と緑の会事務局長	坂本耕平さん
砂浜美術館事務局長	水野聖子さん
入野漁業協同組合参事	澳本健也さん

トピックス

○四万十川歩行者天国(仮称)

8月14日(月)の西土佐村口屋内ふるさと祭りに合わせ、口屋内沈下橋を歩行者に開放します。

次回(8月10日発信)は『こどもを川にもどす提言』を予定

こどもを川にもどす提言

清流通信「四万十川物語」の読者のみなさんこんにちは。

今回は、先頃出されました「こどもを川にもどす提言」についてお伝えしようと思います。

川で遊ぶ日が1年間に10日に満たない子どもたちが約半数を占めるなど、四万十川流域でもこどもの川離れが進んでいます。背景には、川の汚れ、多忙な学校生活、水難事故への配慮など様々な要因があると考えられます。

時代を担う子どもたちが楽しい川の思い出とともに、豊かな感性や、自然環境への配慮を育んでいけることを願って、清流四万十川総合プラン21推進委員会から、「こどもを川にもどす提言」が出されました。

提言では、

- ・こどもが遊ぶことのできる四万十川を大切にする（四万十川の価値の再確認）。
- ・四万十川で遊び、四万十川を愛するこどもを育てる。
- ・こどもの川遊びを見守る状況を作り出す。

を基本に、川的环境保全、川に触れる機会の確保などの具体策が示されています。

この夏も、流域の小中学生による一斉水質調査や自然生活体験キャンプなど、いくつかの活動が行われています。四万十川にはこどもを受け入れる水辺があり、川で遊ぶこどもの姿には人と川との理想的な関わりが残っています。この提言を実現するため、流域住民、学校、県や市町村等が力を合わせて、こどもの歓声が響く、美しく豊かな四万十川を残すための取り組みを進めていきたいと思っています。

四万十歩行者天国

前章でもお伝えしましたが、四万十川流域の生活文化遺産としての「沈下橋」の魅力を体験していただくため、8月14日に西土佐村の口屋内沈下橋を歩行者に開放する予定です。同日は口屋内ふるさと祭りも予定されております。歩行者天国の時間帯は午前8時から午後10時（ふるさと祭りは午後4時から）となっております。

なお、雨天の場合は、ふるさと祭りは中止させていただきます。

問い合わせ先：

高知県四万十川対策室 088-823-9795

西土佐村建設課 0880-52-1111（代）

**トピックス****○週刊「四万十」(仮称)発刊**

高知県中村林業事務所では、地域における「木の文化県構想」を推進するため、FAX、Eメール通信「週刊「四万十」(仮称)」を発刊することにしました。これは「木の文化県構想」について、様々な取り組みや情報をわかりやすい形にして、発信することを目的としています。第1号は9月上旬発信の予定です。ご希望の方は週刊「四万十」発行人 小味章秀 akihide_komi@ken3.pref.kochi.jp FAX 0880-35-5585 までご連絡ください。

次回（9月10日発信）は『森は海の恋人植樹祭』を予定

四万十川の「清流度」

清流通信「四万十川物語」の読者のみなさんこんにちは。

今回は、前回予告いたしました『森は海の恋人植樹祭』の予定を変更して、四万十川の透明度の測定についてお伝えしたいと思います。

毎年行われています四万十川の水質測定結果を見ると、一般に川の汚濁度を示しているBOD（生物化学的酸素要求量：有機汚濁の指標）やSS（浮遊懸濁物質：にごりの指標）は概ね良好で、むしろ改善しているように見られます。しかし、こういった数値では、川の水の「きれいさ」を具体的に思い描くことが困難で、人間が感じる微妙な水質の変化に対応できていないのではないかと考えられます。

このため、四万十川対策室と高知県環境研究センターでは、清流を代表する四万十川の変化を把握するために、水平方向の透明性（清流度）に着目し、指標として採用できるかどうか、その測定はどうやればいいかなどを検討しています。これは「水に潜ったときに、何メートル先の魚が見えるか」をイメージしたもので、清澄度の高い水環境では、にごりのわずかな変化に対して、清流度が大きく変わる傾向があります。

専門家のアドバイスや現地調査の結果をもとに、今年度中には指標としての安定性や測定方法について結論を出す予定です。

以下は7月11日に行った測定の例です。

清流度及びSS測定結果（H12年7月11日 測定）

測定箇所	測定項目	清流度（メートル）		SS（mg/l）
		黒色板	白色板	
四万十川	鍛冶屋瀬橋	3.0	3.7	1
	大正流量観測所	4.4	4.9	1未満
	橋	3.5	4.0	1
	具同***	2.0	2.4	2
目黒川四万十川合流前		9.3	11.9	1未満
黒尊川四万十川合流前		13.1	16.5	1未満

- ・四万十川（本川）の環境基準：SS 25mg/l 以下
- ・この日の具同は、上流で何らかの人為的な影響を受けているのではないかと思います。



45度の角度で反射鏡を取り付けた測定装置を使って、川の中を水平方向に観測し、水中の黒色板や白色板が、何メートル先まで見えるかを測定

~~~~~四万十歩行者天国~~~~~

8月に開催された四万十歩行者天国は、ご好評のうちに無事終わることができました。誠にありがとうございました。

さて、今月23日（土）にも四万十川流域の生活文化遺産としての「沈下橋」の魅力を体験していただくため、西土佐村の口屋内沈下橋を歩行者の皆様へ開放する予定です。同日は火振り漁も行われる予定です。歩行者天国の時間帯は午前8時から午後10時（火振り漁は午後7時頃から午後9時頃まで）となっています。

なお、雨天の場合は、火振り漁は中止となります。

問い合わせ先：

高知県四万十川対策室 088-823-9795

西土佐村建設課 0880-52-1111（代）

次回（10月10日発信）は『森は海の恋人植樹祭』を予定

第44章 (H12.10.10)

送信者: 高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

四万十川で見られる「あわ」

「四万十川物語」読者の皆様、こんにちは。

今回は四万十川で見られる「あわ」についてお知らせしたいと思います。

四万十川中下流域で、多数のあわが集合したものや筋状に並んだあわが流れる様子を目にすることがあります。「あわの発生は、家庭排水の洗剤が流れ込んでいるためではないか？」と懸念する声もあがっています。高知県環境研究センターが行った平成10年4月から平成12年4月までの調査の結果、原因物質として洗剤等の人工的な界面活性剤ではなく、水中の藻などから溶け出す「多糖類」が有力視されることがわかりました。これらの「あわ」の発生は自然のメカニズムが引き起こす現象と考えられること、また「あわ」の発生防止は困難であることなどから、今後はあわの正体を理解してもらうために、流域内外にこの情報を発信していきたいと考えています。

図1 あわ発生のしくみ

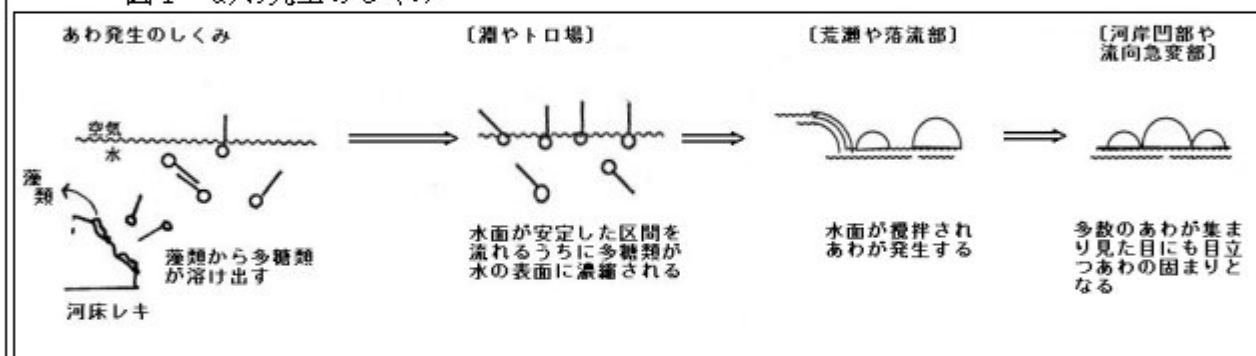


図2 中村市高瀬橋付近(H11.8)



☆うえの多糖類は、次のような性質を持っています。

- ・疎水基（水となじみにくい）と親水基（水になじみやすい）を持つため、水と空気の接触面に集まりやすい
- ・表面張力を低下させ、水をあわ立ちやすくする

淵やトロ場、荒瀬などは四万十川固有のものではありませんが、四万十川は河床勾配が緩やかで、長大なトロ場が存在するなどの特徴があるため、他の河川に比べてあわが発生しやすいと考えられています。

なお、現地調査の結果、黒尊川（四万十川の一次支川）上流部の清冽な水域をはじめ、上流・本支川を問わず、水系全体であわの発生が確認されました。

トピックス

○第8回四万十川大学院開催

平成12年10月14・15日に大野見村で四万十川大学院を開催。14日は女性が語る四万十川の未来「四万十川の美しさとその明日」、講演「人の勝手都合と魚たちー魚から見た四万十川ー」15日はワークショップ「みんなで考えよう！四万十川の未来」の開催が予定されています。

【問い合わせ先】

第8回四万十川大学院実行委員会事務局 大野見村建設課 TEL:0889-57-2021 (代)

次回(11月10日発信)は『沈下橋の文化的価値』を予定

四 万 十 川 の シ ン ボ ル 「 沈 下 橋 」

～一斗俵沈下橋、登録有形文化財に～

四万十川では秋が一層深まり、ところどころ紅葉も見られます。清流通信のみなさんは元気にお過ごしでしょうか。

四万十川のシンボルであり、流域の原風景を形づくる沈下橋。流域には47の沈下橋があります。今回は、10月20日に沈下橋としては全国で初めて、国の「登録有形文化財」に登録された「一斗俵（いっとひょう）沈下橋」をご紹介します。

「一斗俵沈下橋」は、四万十川流域に現存する最古の沈下橋で、昭和10年に建設されました。中流域の窪川町一斗俵に位置し、窪川町中心市街地から上流に向かって車で10分程のところにあります。

この沈下橋は、築後50年を経過し、国土の歴史的景観に寄与していることから、有形文化財として登録されたものです。

橋の近くで商店を営んでいる羽方日出男さん（83才）に建設当時のお話を聞きました。建設前には、兩岸を結ぶ渡し船があり、橋の建設とともに廃止されたそうです。また建設にあたっては、当時の役場からの支出だけではなく地元も相応の負担をしたこと、橋脚の水中での床堀は潜水夫が手作業で行っていたこと、工事現場で川に落ちた作業員には温めた豆腐がふるまわれた話などがありました。

羽方さんから、一斗俵沈下橋が人間だったらこんなこと言うんじゃないか、ということもお伺いしました。



わしは「一斗俵沈下橋」。戦前の昭和10年に生まれ、今年で65才になる。年金の代わりに「文化財」という表彰をもらったようなもんじゃ。

長さは60.6mで幅は2.5m。仲間のうちでは中くらいの大きさじゃ。作られて数年もしないうちに真ん中の足を大水にさらわれてしまっ、しばらくは使いもんにならんかったが、戦争から帰ってきた人たちに修理してもらったんじゃ。

昔はわしの上をバスやトラックが走っていて、人や物がずいぶんと行き交ったものじゃ。が、孫みたいな橋がすぐ下流にできて、わしの役目は、子ども

たちの水泳の飛び込み台や魚釣りの絶好のポイントになったんじゃ。そうこうしているうちに、面倒みきれんから壊そうという話がおこった。じゃが、わしと一緒に育った頃合いの者たちが、わしはこの地の文化そのものだから壊さず残そうと言ってくれたおかげで、命拾いたわい。

仲間から聞いた話じゃが、沈下橋を渡って嫁いできた嫁さんが祝言をあげている最中、大雨が降ってきたんで、橋が水中に没するほど水かさが増える中、嫁さんの親戚連中が大慌てでわしの仲間の上を帰っていったこともあったそう。わしが生まれてからいろいろあったもんじゃ・・・。

窪川町役場では、一斗俵沈下橋を地域おこしにも活用していきたいと話しています。沈下橋の保全と活用が、四万十川の保全と活用にも大きくつながっていくことを期待しています。

津野山（古式）神楽

毎年10月末～11月にかけて、梶原町と東津野村の津野山一帯の神社で奉納される踊りで、全てを舞納するには約8時間を要すると言われる勇壮な神楽です。

梶原町では「津野山神楽」、東津野村では「津野山古式神楽」と呼ばれており、いずれも国の重要無形民俗文化財です。

お問い合わせ先 梶原町役場 0889-65-1111

東津野村役場 0889-62-2311

四万十川流域の農家民宿

～四万十川流域のグリーンツーリズム～

20世紀も残すところわずかになりました。四万十川でも、夕方に日陰に入ると厚着なしではいられない季節となりましたが、清流通信の読者のみなさんは元気にお過ごしでしょうか。

四万十川流域では、今年2軒の農家民宿(民泊)がオープンしました。位置は四万十川の上流部の橋原町と中流部の大正町です。そこで、今回は農家民宿を紹介させていただきます。

まずは橋原町川西路にオープンした農家民宿「いちょうの木」から。川西路は周囲を山に囲まれた15軒ほどの小さな集落。主の上田さん宅から隣の家までは100m以上離れており、「いちょうの木」からは、静かな野山が見渡せます。

農業を営まれている上田知子さんが橋原町川西路にご自宅の一部を改装した農家民宿を開いたのは今年の4月。山菜取りなど、季節に応じたさまざまな農作業の体験ができるほか、農作物を宅配便で送ってもらうこともできます。やさしい上田さんの人柄に惹かれて、2回・3回と訪れる方もいらっしゃるとのこと。

宿泊料金(1泊素泊まり: 3,500円)

一方、大正町にできた、農家民泊「はこば」について。中津川という40世帯弱が住む集落にあり、中津川の集落に入る道の最後の角を曲がると、視界にログハウスが飛び込んできます。

農業と林業をされている田辺莊市さんが、森林のことをもっと知って欲しいとの思いから作られました。ご自身も農業の傍ら、森林組合の仕事も手伝っており、山から切り出した木材でログハウスを建設、農家民泊としてこの夏にオープンさせました。森林で体験できるメニューづくりと広報活動が目下の課題ということですが、ご自身で設計されたログハウスはゆったりとした作りで、夏は川から吹き込む涼しい風が、また冬には室内の備えつけの薪ストーブが部屋を快適に保ってくれます。

宿泊料金(1泊素泊まり3,000円)

上田さんは「人とのかわわりを大事にしたい」と言い、また田辺さんも「たくさんの方との出会いを楽しみにしています」と言われるように、お二人とも、農家民宿(民泊)を都市との交流の場として提供していきたいとおっしゃっておられました。

問い合わせは下記まで

農家民宿「いちょうの木」 上田知子(とどこ)様方 TEL:0889-65-0418

電子メール siyaji@ps.inforiyoma.or.jp URL: <http://www2.inforiyoma.or.jp/~siyaji/>

農家民泊「はこば」 田辺莊市様方 TEL:0880-27-5305

電子メール hakobas@sun.inforiyoma.or.jp



Tシャツアート展作品募集開始

来年で第13回を迎える、Tシャツアート展(大方町・入野の浜: 砂浜美術館)の募集が始まりました。締め切りは2001年3月12日。応募料が1点につき3,500円必要です。

応募者全員には自分がデザインしたTシャツが6月に送られてきます。

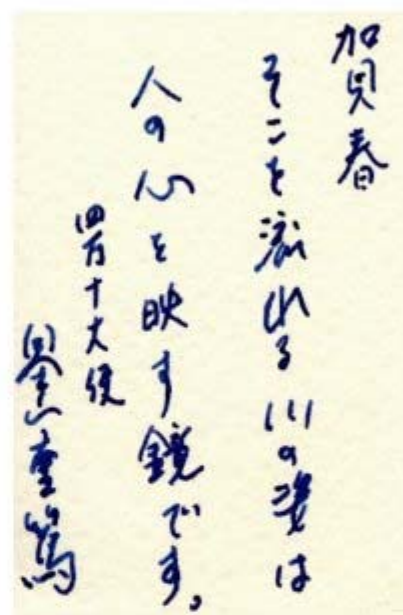
お問い合わせは 0880-43-4915 砂浜美術館事務局まで

「森は海の恋人植樹祭」は、来年3月に開催する予定で準備を進めています。

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

～四万十川の21世紀に向けて～

(森は海の恋人 畠山重篤さん)



(作家 椎名 誠さん)

高知県 四万十川対策室 一同

清 流 通 信 「 四 万 十 川 物 語 」

第48巻 (H13. 2. 10)

送信者：高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@kenpref.kochi.jp

四 万 十 ・ 流 域 圏 学 会 設 立

～四万十川をめぐる多分野の連携～

寒い日が続いていますが、清流通信の読者のみなさまは元気にお過ごしでしょうか。四万十川流域では、そろそろ花粉が飛ぶ季節になります。花粉症の方にとっては頭が痛い季節ではないでしょうか。

今回は、2月8日(木)に設立発起人会及び設立総会が行われました、「四万十・流域圏学会」についてお伝えします。

四万十川や全国の河川とその流域圏が持つ課題を解決し、地域づくりにつなげることを目的として、四万十・流域圏学会が設立されました。四万十川流域には、自然環境、森林管理、経済構造、地域文化の伝承など多くの課題があります。これらは個別の研究、対応では解決しがたいため、各分野の専門家などが連携して対応する必要があります。

学会の今後の取り組みとしては、

- ・地域住民及び産・官・学が連携した実践的な研究や行動
- ・全国の流域圏や研究者・技術者・地球市民との交流
- ・次世代への展開、次世代を担う人材の育成

などが考えられています。

四万十・流域圏学会では次世代を担う人材育成を重視しており、小・中・高校生のジュニア会員を募集することになっています。例えば、1日目を成人からの、2日目をジュニア会員からの研究発表を行うことなどが考えられます。

【問い合わせ先・入会希望】

TEL0887-57-2418 (高知工科大学 村上研究室)

TEL088-823-9795 (高知県四万十川対策室)



森は海の恋人植樹祭

「森は海の恋人植樹祭」を3月24日(土)に四万十川の海流点付近で行う予定です。

「森は海の恋人」運動は四万十大使の畠山重篤さんが実践されています。海の生物が成長するのに必要な物質は森から川を通じて供給されており、上流にある森林がいかに重要であるかを植樹活動を通じて示されています。

また、下流の人に上流がどういう状況になっているのか、上流の人に上流での行動がどのような影響を下流に及ぼすのか、関心をもってもらうこともこの植樹祭の目的です。

詳しくは次号で取り上げさせていただきます。

次巻(3月10日発行)は「森は海の恋人植樹祭」を予定

四万十川対策室ホームページ：<http://www.pref.kochi.jp/~shimanto/>

財団法人四万十川財団ホームページ：<http://www.shimanto.or.jp/>

清流通信「四万十川物語」

第49章(H13.3.10)

送信者:高知県四万十川対策室

tel(088)-823-9795 fax(088)-823-9296 e-mail s14102@ken.pref.kochi.jp

森は海の恋人植樹祭

～源流点に大漁旗が！～

森は海の恋人。なんと素敵なフレーズなんでしょう。森が海の生き物たちを支えていることに気がついた漁師たち。山に木を植える活動が、全国に広がっています。海は川を通じて森とつながっています。健全な森が健康な海の生き物をはぐくみます。

昨年7月に開催しました「森は海の恋人意見交換会」に引き続き、大漁旗がはためく山で、広葉樹の植樹に参加しませんか。場所は東津野村の四万十川の源流点。

- ・名称 四万十版「森は海の恋人」&自然再発見！四万十川源流点の森づくり合同植樹祭
- ・日時 平成13年3月24日(土)
午前9時15分集合(小雨決行)
- ・集合場所 東津野村船戸(元県立森林センター資材倉庫跡)
(中村市・高知市・東津野村役場前から送迎バスがあります)
- ・植樹場所 四万十川源流点周辺(東津野村船戸)
- ・募集人員 120名程度(中学生以上:定員に達した場合締め切ります)
- ・参加料 無料
- ・持参品等 作業に適した服装(防寒具、運動靴等)、雨具、鍬、鎌、弁当と飲み物(各自持参)
- ・バス 高知市から:県民文化ホール前 午前8時出発
中村市から:中村市役所前 午前7時50分出発
東津野村から:東津野村役場前 午前9時出発
- ・申込締切 3月19日(月) ※申し込みのとき、バス便を利用するかどうかお申し出ください。
- ・申込先 高知県四万十川対策室 (TEL088-823-9795,FAX088-823-9296)
東津野村役場産業建設課 (TEL0889-62-2314,FAX0889-62-3519)



四万十・流域圏学会、会員募集

2月8日に設立発起人会及び設立総会が行われました四万十・流域圏学会では、会員を募集しております。

お問い合わせ先はTEL0887-57-2418(高知工科大学 村上研究室)かTEL088-823-9795(高知県四万十川対策室)です。興味がある方は是非ご入会ください。

なお、来年度活動として、まず5月11日に第1回総会、研究発表会を、5月12日に四万十川見学会を予定しております。

次章(4月10日発信)は『対策から振興へ』を予定

四万十川対策室ホームページ: <http://www.pref.kochi.jp/~shimanto/>

財団法人四万十川財団ホームページ: <http://www.shimanto.or.jp/>

清流通信「四万十川物語」

第50章(平成13年4月10日)

送信者:高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「四万十川条例」の誕生

清流通信の読者のみなさま、こんにちわ。4月に入り、桜から新緑の季節に移ろうとしています。今回は3月23日に議決されました「四万十川条例」についてお伝えします。

日本最後の清流と称される四万十川。流域にお住まいの方々をはじめ、県民・国民の共有財産として四万十川を後世に引き継いでいくことが、高知県の責務と考えています。

高知県ではこのほど、四万十川の保全と流域の振興をすすめるための基本的なルールを継続的なものとする「高知県四万十川の保全と流域の振興に関する基本条例(略称:四万十川条例)」を定めました。河川流域を対象とした県条例は、全国的にも例をみないものです。

条例のねらいとして3点ほどあります。

- 1) 人と自然の共生(環境をテーマとした魅力ある地域づくり)
- 2) 人と川のかかわりの文化の保全
- 3) 生態学的に健全な流域の保全と創造

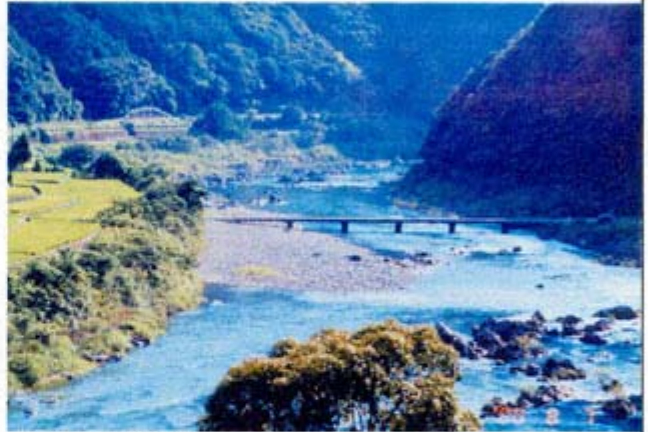
条例の内容として特徴的なものは、

- 1) 河川沿いの必要最小限度の区域における一定の開発行為の規制
- 2) 「環境配慮指針」に基づく公共事業の実施
- 3) 環境自治ともいえる「人と自然の共生モデル地区」の設定
- 4) 四万十川の清流を維持・向上させるための「清流基準」の設定
- 5) 清流の保全に欠かせない保水力の向上、自然浄化機能の向上、濁りの防止
- 6) 条例が効果を発揮しているかどうかを把握する「住民意識調査」
- 7) 流域振興のための具体的計画として「流域振興ビジョン」の策定

などがありますが、流域を訪れる旅行者のみなさまも四万十川の保全には無関係ではないことも規定しています。

なお、条例の運用に必要な施行規則は今後、1年から2年程度をかけて定めることとしています。

※ 条例全文は高知県のホームページでご覧になれます。



6人目の四万十大使に山村レイコさん就任

国際ラリーライダー、エッセイストとしてご活躍されている山村レイコさんに、四万十大使として新たにご就任いただきました。

3月26日の県庁での就任式では、橋本知事から委嘱状と四万十大使の名刺をお渡しし、大使としての活動をお願いいたしました。前日に四万十川を訪れた山村さんは、「四万十川へは数回来たが、昨日が一番感動的。幸せな時間をもたせていただき、肩書きは四万十大使一本でいいかな、と思う。同行した者(男性)が、四万十川を見て(その美しさに)涙ぐんでいました。大使として四万十川を何度も訪れて環境問題に携わりたい。永いおつきあいをお願いします。」と抱負を述べておられました。

清流通信「四万十川物語」

第51章(平成13年5月10日)

送信者：高知県 四万十川流域振興室

TEL(088)823-9795 FAX(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川の清流基準

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。今年のゴールデンウィークも、四万十川は大勢の観光客でにぎわいました。今回は、平成12年度に四万十川及び主要支川で行った「にごり」に関する調査についてお伝えします。

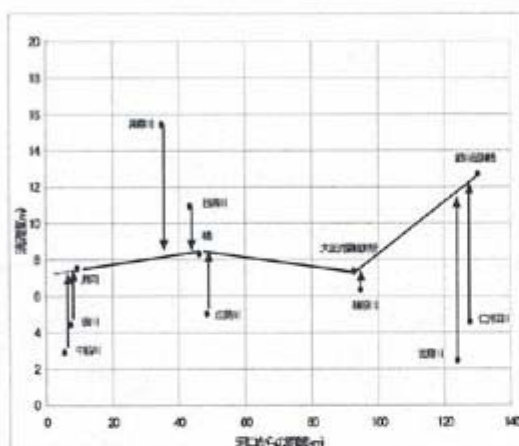


図1 清流度分布 (H12.12.12 ~ 13)

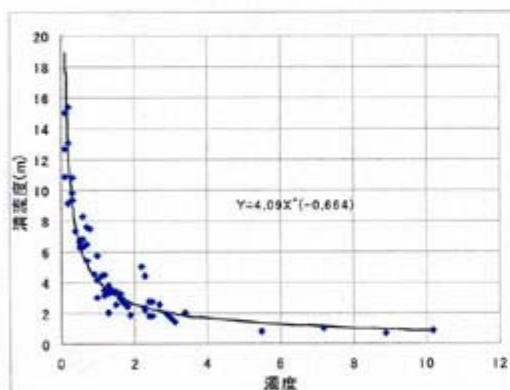


図2 清流度と濁度の関係

四万十川(本川)は河川環境基準の最上位であるAA類型に指定され、SS(浮遊物質濃度)の基準は25mg/l以下となっています。平成12年度の調査では、ほとんどすべての地点で、SSが1mg/lまたは1未満でした。

図1に平成12年12月の清流度(水平方向の透明性)測定結果を、図2に、清流度と濁度の関係を示しました。

図2からは、ほとんど懸濁物質を含まない領域では、懸濁物質がほんのわずかでも増えると、清流度が急激に減少することがわかります。人間の目を見た水の清らかさは、懸濁物質濃度に極めて敏感です。

黒尊川では清流度が20mを超え(図2で見ると、濁度で0.1~0.2度)、四万十川本川においても10m以上(同0.5度)に及ぶときがあります。これが「最後の清流」といわれるゆえんです。

このことは、もし現在の清流度を維持し続けようとする、濁度が1mg/lを下回るような状態を保全していく必要があることを意味します。

四万十川流域振興室では、現在、四万十川条例清流基準—清流保全目標—策定のための準備をすすめています。これらの調査結果を踏まえ、各地点の清流度の基準値をいくにするのか、また、今後のにごり対策をどう進めるかが課題です。

四万十森林記行

中村林業事務所では、「木の文化ネットワーク」の構築を目指し、毎週木曜日に「四万十森林記行」を配信しています。森林・林業・山村・自然環境、木の文化などに関わる情報発信を行っていますので、関心をお持ちの方は、四万十森林記行編集局(高知県中村林業事務所内)まで、お問い合わせください。

TEL: 0880-35-5977 FAX: 0880-35-5585 E-mail: chikau_matsumoto@ken3.pref.kochi.jp

清流通信「四万十川物語」

第52章（平成13年6月10日）

送信者：高知県 四万十川流域振興室

TEL(088)823-9795 FAX(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

きこり 四万十川財団 樵養成塾

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。今回は、活動2年目に入った四万十川財団の事業の中から、今年から新たに始めようとしています樵（きこり）養成塾について、ご紹介します。

四万十川の清流の豊かさを保つためには、周囲の森林、特にその約7割を占めている人工林の手入れをすることが重要です。

このため、四万十川財団は、ボランティアを募り、間伐などの手入れ作業を進めていくこととしています。そして、その作業には一定の技術が必要ですので、この樵養成塾ではその人材を育てることを、ねらいとしています。

募集は、8月頃から開始しますので、参加希望の方は、今から心づもりをお願いします。



事業の主な内容は、次のとおりです。

- ・ 2泊3日（11月）、3泊4日（1月）の日程で研修を行う予定です。
- ・ 実施場所は、四万十川源流点近くの高知県森林センター（東津野村船戸都4727）と船戸地区所有林です。
- ・ 研修生は、10人程度を予定しており、2万円程度の受講料（宿泊費と交通費は別途自己負担）をお支払いいただくことを考えています。
- ・ カリキュラムは、日本森林ボランティア協会が実施している講座を参考にして定めます。

この研修を契機に、四万十川流域の森林の再生に向けて、今後、多くの人々が参画していただくようになればと願っています。

詳しいことのお問い合わせ先：財団法人 四万十川財団

TEL 0880-29-0200

FAX 0880-29-0201

E-mail zaidan@shimanto.or.jp

URL <http://www.shimanto.or.jp>

トピックス

高知県立四万十高校が「第2回高校生自然環境サミット」を8月1日（木）から3日（金）にかけて開催します。このサミットは、昨年、四万十高校の姉妹校である群馬県立尾瀬高校が第1回を開催してスタートしたもので、高校生が企画し、高校生が運営する、高校生のためのサミットとすることを基本としています。

昨年は、四万十高校、尾瀬高校をはじめ屋久島高校など16校が集まりましたが、今年も同程度で計画されています。

なお、詳しくは、

四万十高校のホームページ（<http://www.edu.net-kochi.gr.jp/home/shiman-h/>）をご覧ください。

昨年12月には窪川高校社会問題研究部が「四万十川と21世紀を考える」シンポジウムを開催するなどしており、今や、四万十川流域の若者の動きが見逃せません。

清流通信「四万十川物語」

第53章(平成13年7月10日)

送信者:高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「第2回高校生自然環境サミット」について

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。暑い日が続きますね。梅雨明けが待ち遠しいです！さて今回は、8月1日から3日にかけて行われる、第2回高校生自然環境サミット（幹事校：高知県立四万十高校）についてご紹介します。

環境学習や環境教育を通じて川や自然を大切にする意識の高揚は、「清流四万十川総合プラン21」や「四万十川条例」でも主要な課題の一つとなっています。特に、川遊びなどの体験を通じ、こどもの時から自然を愛する気持ちを育てることが大切です。

この自然環境サミットは、次の世代を担う高校生自らが、自然と人間とのかかわりについて体験し、考えるためのものです。メインテーマは「人と自然との共生」。前年は日光国立公園のある群馬県の県立尾瀬高校で開催されました。今回は「人と自然の共生」を目指す四万十川流域で、「環境コース」を持つ四万十高校を舞台に開催されます。参加校は、北海道の標茶高校から南は九州屋久島高校まで15校が参加します。

(日程)

8月1日(水) (会場:「きらら大正」高知県大正町田野々)

14:00~17:15

基調講演:橋本大二郎高知県知事

四万十学習:自然環境サミット生徒実行委員会

17:45~

夕べの集い(四万十川)

8月2日(木)

8:30~17:00

自然体験活動(水質調査&カヌー体験)

8月3日(金) (「きらら大正」)

8:30~12:00

実践発表と閉会行事

※夕べの集いを除き、1日と3日は一般の方の参加を歓迎します。なお、参加枠に少し余裕がありますので四万十川での環境学習を希望する高校生の参加を追加募集しています。

四万十高校の健闘に期待したいと思います。



○問い合わせ先

高知県立四万十高等学校

高知県幡多郡大正町田野々 590-1

TEL 0880-27-0034

FAX 0880-27-0477

四万十川の水量

7月1日より、佐賀取水堰から下流への放流量が毎秒3.4立方メートル(実流量)とされています。この放流量は比流量ベースにしますと毎秒0.9立方メートルとなり、全国で最大の放流量となっています。6月下旬には、「流量が例年より多い」と、おっしゃる下流の川漁師さんもいました。

※比流量は、実放流量の「3.4立方メートル」を取水堰の流域面積である「378km²」で割り、その数を「100km²」当たりで表した数字をいいます。

☆次回発信は「7月25日(四万十川の日)」です。

清流通信「四万十川物語」

第54章(平成13年7月25日)

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「清流四万十川総合プラン21」5年間の総括

送信者:
高知県
四万十川
流域振興室

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。四万十川でも猛暑が続いています。体調の維持に十分お気をつけください。

さて、7月25日は「四万十川の日」。平成6年のこの日に河川名称が渡川から四万十川へと改められたのを記念し、四万十川保全を呼びかけるために四万十川条例でも決めました。今年は、記念行事やイベントは準備しませんでした。流域市町村では「四万十川クリーン大作戦」が事前に行われました。今回は、四万十川総合対策の指針である「清流四万十川総合プラン21」の5年間の評価と今後の方向についてお伝えします。

「プラン21」は平成8年3月に策定し、平成17年までが計画期間となっています。策定後、5年を経過しましたので中間の総括を行ったものです。プラン21の目的は大きく分けて次の二つです。

四万十川の保全と流域の振興

中間評価にあたって、プラン21で示された課題や問題点と、対応策としての施策・事業を因果関係に着目したフレームワークに割り振り、これらの施策・事業がプ

自然が豊かな四万十川流域をフィールドに、持続的発展のモデル事例づくり(産業・経済、社会などの分野への環境配慮の視点の内在化)を行い、他の地域に展開

ランの目的に向かって、アウトプットではなくアウトカムとしてどのような成果を収めたのかを、施策効果・環境配慮・持続可能性理念の面から、相対評価に基づき自己評価を行いました。

7月5日に開催された「第11回プラン21推進委員会(澤良木庄一会长ほか13名)」では、これら自己評価結果と推進委員の四万十川(流域)に関する現状認識との双方から、5年間を振り返っていただきました。

プラン21推進委員会における、主な論点や御意見は次のとおりです。

1 5年間の評価

- ①仮に「プラン21」がなかった場合を考えると、流域全体としては大いに成果があがっている。
- ②5年間の成果は、梶原町におけるFSC取得などデータでは見えないものも含め一定上がっているが、効果・成果はこれから出てくるだろうし、今後の取組が大事である。
- ③流域市町村間で取組に温度差があるなかで、連携のあり方を検討する必要がある。
- ④プラン21がこれだけ多岐に渡っていることは評価すべき。一方で、行政の活動が多く、民間へ浸透する手だてが十分ではなかった。
- ⑤佐賀取水堰の水利権問題に関する議論ができなかったことが残念。

2 評価の手法

- ①水質のBODやSSに代表される従来の基準ではなく、四万十川(流域)にふさわしい指標・基準の設定が必要。
- ②地域の人にも努力の成果が分かりやすい指標・基準の設定が必要。
- ③より実態を反映することができるデータの収集・整理と評価の時間軸の設定が必要。

3 プラン21の今後(見直しの方向)

- ①こどもをどう巻き込んでいくか、環境教育が重要。
- ②流域圏というまとまりでみた生態学的な景観と地域振興の視点が重要。
- ③今後、実効をあげるためには新たな施策・対応が必要だし、流域の側にも課せられている。

四万十大使・山本容子さん講演会

(四万十川僻村塾と共催)

版画家で四万十大使である山本容子さんと月尾嘉男東京大学教授の講演会を、山本大使が月尾教授とともに四万十川流域を訪問される機会に、次のとおり開催します。

日時:平成13年7月28日(土)18:30~20:30

当日、会場で参加受付

会場:高知県中村市弥生町 中村プリンスホテル(2階ホール)

参加費1,000円が必要

山本容子大使:「フランス料理にふれて」、月尾教授:「情報と多様」

清 流 通 信「四 万 十 川 物 語」

第 5 5 章 (平成 1 3 年 8 月 1 0 日)

送信者：高知県 四万十川流域振興室

Tel (088) 823-9795 Fax (088) 823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十をなめたら、いかんぜよ！！

近年、河川を利用した自然体験型のレジャーを楽しむ人々が増加しています。これに伴い、釣り、水泳やキャンプ中の水難事故が跡を絶ちません。四万十川でも、今年 7 月、遊泳中の男性が溺れて亡くなりました。

「自然の恐さ」は、ゆったりとした流れが続く四万十川も、決して例外ではありません。四万十川にお出かけの際には、川の状態を把握し、「恐さを知って」川と親しんでいただきますよう、お願いいたします。

また、流域では、水難事故防止に向けたさまざまな活動が行われています。注意喚起の呼びかけに応じていただく等、活動への御協力をお願いします。

(活動の例を 2～3 紹介します。)

●四万十川安全対策連絡会

西土佐村内の地区長、カヌー体験業者や関係する行政機関で構成されています。四万十川安全マニュアルの作成・配布などを行っています。

●中村警察署

夏休み中の土、日曜日を中心に、署員が中村市から西土佐村にかけての四万十川流域を巡回。水辺のレジャーの安全確保を呼びかけています。

●四万十川流域住民ネットワーク

警察や消防署の方たちが常時見回るには、四万十川は長すぎます。流域で生活し川の特徴を知っている住民の方々が、レジャー客の方に一言声を掛ける、「土っ佐の一言」の活動を進めています。



★楽しい川遊びのために・・・

- ・川遊びの前には、地元の人に川の状態を聞きましょう。
- ・ダム放流や集中豪雨時の沈下橋は、通行・カヌーでの川下りとも大変危険です。
- ・体力を過信しないで、長旅の後すぐ川に入らないこと。特に四万十川を泳いで横断することや履物を履いたままでの遊泳は絶対しないで下さい。

—【四万十川安全マニュアル】より—

企画展「西四国の縄文文化」の御案内

愛媛県南西部から高知県西部にかけての西南四国地域には、リアス式海岸の宇和海、国内有数の清流四万十川、石灰岩が広がる四国カルストと豊かな自然が残っています。このような自然とともに暮らした縄文時代の人々の足跡が発見されたのは、今から 110 年前の明治 24 年のことでした。西南四国地域では、その後も現在に至るまで、多くの遺跡・遺物が発見されています。

愛媛県歴史文化博物館では、9 月 2 日(日)までの予定で、企画展「西四国の縄文文化」を開催中です。この企画展では、十川駄馬崎遺跡(十和村)、木屋ヶ内遺跡(大正町)など、四万十川流域の遺跡からの出土遺物も、多数展示されています。縄文時代の人々の活動の跡を、再発見してみませんか。

*お問合せ先：愛媛県歴史文化博物館(東宇和郡宇和町) TEL 0894-62-6222

四万十川安全マニュアルは、西土佐村観光協会(カヌー館)などで配布しています。

TEL(088)823-9795 FAX(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp



清流通信「四万十川物語」

第57章(平成13年10月10日)

送信者:高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「砂防ダム」について

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。今回は、四万十川中流域・十和村にある長沢川砂防ダムのスリット化についてご紹介します。

川が雨水などを集めて上流から下流まで水が流れるシステムを「水系」といいます。これと同様に、土砂が上流から下流まで下るシステムを「流砂系」といいます。砂防ダムは、この流砂系を人工的に制御することで、土石流を直接受け止め、下流に住む人々や家屋を災害から守る役割を果たします。また、砂防ダムに土砂を貯留することで河川の勾配を緩やかにし、流水の勢いを弱め河床が削られるのを防止したり、兩岸の山裾を固定して山腹の崩壊を防ぐ働きもしています。

一方で、ほぼ垂直に近い「壁」が河川の途中にできますので、生物の遡上や降下が妨げられます。また、下流への砂利の供給が止まりますので、下流の砂利が少なくなり河川の自然浄化機能が低下したり、生物の生息環境に支障が出るといった弊害も指摘されています。

平成8年3月に策定した清流四万十川総合プラン21でも、「自然の浄化力に砂利が大きく寄与している」としており、解決すべき課題として「砂防ダムの堆積砂利を下流に返すことについて研究検討すべき」としています。

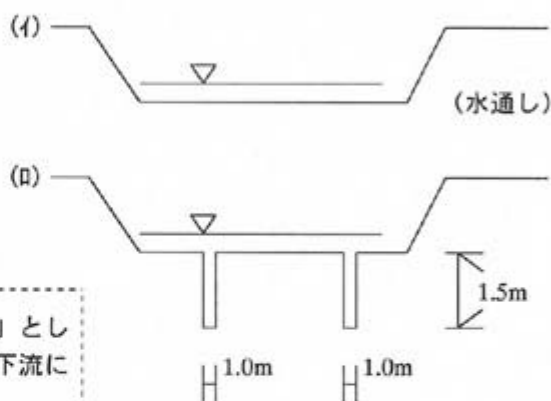
約45年前に完成した十和村の長沢川砂防ダムでは、コンクリートの堤に今回新たにスリットを入れることで、満砂した砂利を下流に返す試みを行っています。通常の砂防ダム(右の(i))の水通し部は真っ平らですが、この水通し部に2箇所のスリットを新たに施工しました(右の(ii))。つまり、堆積している砂利は下流へ流れ、大きな土石はやはりせき止める構造に変えました。スリットを更に深くすれば、上下流の分断も解消できますので水生生物の行き来も確保できます。

現在、水通し部のスリットを1.5m切り下げっていますが、周辺に支障が観測されず防災上の問題がなければ、更に切り下げを行う予定です。地元からは「砂利が供給されることで川に蛇行ができ、河川水が伏流水となって水温が下がり魚も多くなる。また、洪水で砂利がアシの根を切り、河川環境が良くなり豊かな自然が取り戻せるので、四万十川全体に拡大して欲しい」との要望も出されています。

お知らせ・1

四万十源流点のある、東津野村の津野山農協がこのほど「てっぺん四万十のお茶」を売り出しました。同村特産の茶葉を四万十川源流点の水で抽出しています(ペットボトル飲料、500ml、150円)。味は少し渋みが残っているものの、香り高く、あと味がすっきりとしています。

問い合わせは、同農協(0889-62-2211)まで。



砂防ダム正面から撮影

お知らせ・2

幡多郡大方町の砂浜美術館では、11月2日～4日に入野松原で、「潮風のキルト展」を開催します。作品は松原の中にロープを張って展示されます。心のこもったオリジナル作品をご覧になりませんか・・・

(問い合わせ) 砂浜美術館事務局

(TEL/FAX 0880-43-4915)

<http://www.gallery.nc.jp/~sunahama/>

E-mail: nitari@mb.gallery.nc.jp

清流通信「四万十川物語」

第58章(平成13年11月10日)

送信者:高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「四万十川の沈下橋をわたる風&千枚田」—かおり風景100選(環境省)—

清流通信の読者のみなさま、こんにちわ。四万十川でもずいぶん寒くなってまいりました。体調の維持に十分お気をつけください。

環境省は10月30日、心地よいかおりとその源となる自然や文化を保全・創出するため、かおり環境として特に優れた「かおり風景100選」を認定しました。高知県では、「四万十川の沈下橋をわたる風(流域8市町村)」と四万十川流域の「神在居の千枚田(梶原町)」の二地点が選ばれています。四万十川は、日本の名水100選にも認定されています。

かおり風景選定にあたっては、

- ・地元住民のみならず、訪問者にとっても楽しめるかおり風景であること、
- ・かおり風景に接することによって、地域住民や訪問者の憩いや安らぎを与え続けることができること、
- ・かおり風景としての「品格」を有し、保存する価値の高い地域であること、

などがポイントとして照らし合わされました。

二地点の「かおり風景」としての概要は次のとおりです。

-四万十川の沈下橋をわたる風-

四万十川の清らかな川面をゆらす風が、清流独特のかおりと河畔の緑の木や野辺にゆれる花のかおりとをミックスし、清流・四万十川にふさわしいかおりを沈下橋に運んでくる。また、水田の稲わらのかおりや火振り漁に用いる松明のかおりなども運んでくる。本川と支川には47の沈下橋がかかっており、周囲の自然や四季折々の景観とマッチしている。沈下橋保存方針などによる保全が行われ、沈下橋には国内で唯一有形文化財登録を受けたものがある。

-神在居(かんざいこ)の千枚田-

標高600mの山の斜面に築きあげられた「千枚田」は四季折々の花、田、水、土、風等の色々な香りの共演が楽しめる。農家の高齢化、後継者不足等で手入れができなくなった田をオーナー制で貸し出すことによって、年間約60人ほどが地元の人に米作りを習いに訪れており、その結果、景観が損なわれず昔のままの姿で見ることができる。「日本の棚田百選」に選定されている。

人々が活動する場は、活動を可能にし誘発するような様々な要素や力を潜在的にもっています。風景、音、におい、温度、光など直接五感に訴える要素。自然空間の広がりや時間のつながり、生き物、その場にいる人々、その人々が生み出した歴史・文化などの様々な要素。これらは、一体となって雰囲気・エネルギーを形成し、人々に「体感」や「共感」を提供します。

日本最後の清流と称される四万十川、その清流を育む流域の人と自然。かおり風景100選に認定された二つの「におい」を体感できる四万十川流域を大切に守っていきます。全国のみなさまのご支援をお願いいたします。

なお、認定書は11月12日、東京都千代田区イノホールにおいて川口環境大臣から授与される予定で、認定書授与式の後、かおり風景100選選定記念フォーラムが開催されます。

津野山神楽・津野山古式神楽

国の重要無形民俗文化財に指定されている神楽が10月下旬から11月中旬にかけて梶原町や東津野村の神社で奉納されています。津野山文化のシンボルとも云える勇壮な神楽をご覧になりませんか。

(問い合わせ)

梶原町役場:0889-65-1111(代)

東津野村役場:0889-62-2311(代)

【移転のお知らせ】

文化環境部・四万十川流域振興室は県庁北庁舎で業務を行っていますが、文化環境部が全て本庁舎4階に移転いたします。引っ越しは11月13日～14日にかけて行います。電話番号やファックス番号、E-mailアドレスなどには変更がありません。

(新所在地)〒780-8570

高知市丸の内1丁目2-20

清流通信「四万十川物語」

第59章（平成13年12月10日）

送信者：高知県 四万十川流域振興室

TEL：088-823-9795 FAX：088-823-9296 E-mail：shimanto@pref.kochi.jp

「四万十川」ここより始まる

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。川は、森を抜きにして語ることができません。森には、水源のかん養機能、環境保全機能や生態系保全機能があり、四万十川源流点の村・東津野村でも、広葉樹林化の促進等、源流点にふさわしい森づくりを進めています。今回は、この源流点の森に今年8月オープンした「四万十源流センター 森の宿」を御紹介します。

「四万十源流センター 森の宿」

（高知県が管理運営を委託）

所在地：高知県高岡郡東津野村船戸

TEL：0889-62-2127 FAX：0889-62-3620

【ホームページアドレス】です

<http://www.h2.dion.ne.jp/~simanto/inaba.htm>

＊宿泊はもちろん、イベント、研修会など、いろいろな形でご利用いただけます。詳しくは、ホームページを御覧ください。

＊実施予定の事業

森林ボランティアによる間伐
森林での環境教育 など

＊林業教室

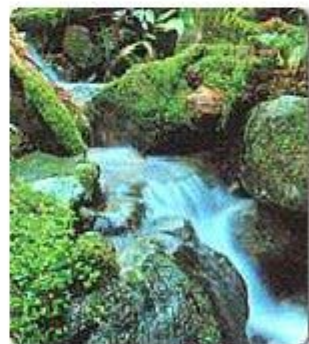
林業指導者養成のための入門教室。
5泊6日で、平成14年3月に実施予定。

＊森の案内（エコツアー）

森の機能を理解してもらうための
源流点、不入山（いらすやま）などへのツアー実施。

首都圏からの参加者を案内して、今年11月、源流センターがエコツアー「四万十源流ウォーク」を実施しました。以下は、ガイドボランティアによる体験レポートの一部です。

…沢蟹が濡れ落ち葉を歩く。苔むした岩達が
守り神のようにそこそこに頑張っている。
大岩を抱くように大樹がそびえ、ひとしきり
見とれる人たち。もうひとがんばり、で
「四万十ここよりはじまる水」（源流点）に
たどり着く。いろいろなものに守られて
そこにあるような、やさしい穏やかな水だ。
…



【写真は四万十川源流】

その地域固有のゆっくりとした時間を過ごし、自然の中で五感の全てを使うことで、自分が自然の一部であることを感じたり、人と自然、歴史、文化との関わり方を、改めて考える機会が生まれます。このような経験をするのが、「こんなに楽しい経験ができる場所だから守らなければ」という、四万十川保全の意識につながっていくのではないのでしょうか。

流域のエコツアー

次の施設でも、四万十川流域のエコツアーを体験することができます。

・ **四万十楽舎**（西土佐村 TEL：0880-54-1230）

自然体験・原生林や溪谷での森林散策（アニマルトラッキングなど）

・ **砂浜美術館**（大方町 TEL：0880-43-4915）

四万十川中流から海までのツアー。森と川と海のつながりを体験します。

清流通信「四万十川物語」

第60章 (平成14年1月10日)

送信者：高知県 四万十川流域振興室

TEL(088)823-9795 FAX(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

活躍中！四万十特派員4グループ・8名

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。四万十川では新年早々寒い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。今年もよろしくお願い申し上げます。

今年最初の号としては、なんといっても、地域の方々の話題にしたいと思い、今年の11月に四万十川財団から「四万十特派員」に就任をお願いしている皆さんの活動についてお知らせすることにします。

四万十特派員には、地域の情報発信に熱意をもっておられる地域グループの方々に就任いただき、四万十川財団のホームページにサテライトページを開設し、四万十川流域の自然、生活、文化などの情報を掲載することで全国に情報発信するものです。

四万十川財団が、特派員にホームページ作成の研修や、デジタルカメラ・スキャナーなどを貸出することで、身の回りの情報を収集し、自らサテライトページの更新を行っていただいています。

現在は、
中村市 「やまびこ」
西土佐村 「麦屋」
十和村 「ただいま十和村探検中」
梶原町 「てんぐの風」
の4グループ、8名の方々が
大変熱心に活動されています。



是非、サテライトページ

↑ 中村市富山地区「やまびこ」グループのページ

<http://www.shimanto.or.jp/satellite/index.html> をご覧ください。

今後、その他の流域市町村からも就任いただく予定ですので、自薦・他薦がありましたら、四万十川財団まで情報をお寄せください。

【お問い合わせ先】(財) 四万十川財団 TEL 0880-29-0200

FAX 0880-29-0201

ホームページ <http://www.shimanto.or.jp>

トピックス

【関西大学 法学研究所 第23回 現代法セミナー「四万十川と流域圏構想」】

関西大学法学研究所の主催で明後日、開催されます。本県からも、四万十川に熱い思いをお持ちの方々が参加し、ディスカッションが行われます。(聴講無料です。)

日 時：平成14年1月12日(土) 13:00～17:00

場 所：関西大学千里山キャンパス 尚文館1階 マルチメディアAV大教室
大阪府吹田市山手町3-3-35

参加者：福 留 脩 文 (関西日本科学技術研究所 所長)

澤良木 庄 一 (黒潮福祉看護専門学校 校長)

西 内 燦 夫 (四万十川流域住民ネットワーク代表世話人 ほか)

お問い合わせ先：関西大学法学研究所

TEL 06-6368-1179

FAX 06-6339-7721

※なお、ホームページもご覧になってみてください。

<http://www.kansai-u.ac.jp/ILS/>

清流通信「四万十川物語」

第61章(平成14年2月10日)

送信者: 高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

四万十川沿いの「国道 381 号道路改築工事」

清流通信の読者のみなさま、こんにちは。寒い日が続きますがもう春も間近です。花粉症の方には頭の痛い季節ですが・・・。

★ 四万十川右岸沿いを西土佐村から十和村に向かって車で走っていると、写真右上のような光景が目に入ってきます。これは国道 381 号道路改築にあたって栈道型式で整備したものです。また中央の写真は、栈道部分から少し上流の江川トンネルの手前の箇所、木の香る道づくり事業で施工されたものです。四万十川での道路改築にあたっては、原則として

- ①エコ・トーンを確保するため川側に拡張しない、
 - ②工事による土地改変量を少なくし、土地の潜在力を活かす、
 - ③山側の法面を切らなければならないときは「木の香る道づくり」としてコンクリートの擁壁でなく自生種による植栽を行う、
- という方針で行っています。これらの工事箇所は、「景観検討委員会」の検討も受けて行われました。

県が委嘱している文化環境アドバイザーによる評価では、「全般的には環境、生態系、また景観への配慮が感じられる。伝説伝承のある君ヶ淵という景観地である場所なので、道路の川側への張り出し部分について、川側からの景観をもう少し考えて欲しい。さらに、景勝地の向こうに白いコンクリートの斜面が見えるのは景観にももう少し配慮が欲しかった。できれば、木の香る道づくりを活かして道路面まで植栽があった方が違和感が少ないと思う。」等の評価を頂いております。

右下写真は上流からの眺めです。



第6回「四万十川清流の森づくり」 (広葉樹の植栽)

日時: 平成 14 年 3 月 10 日(日)10:00 ~ 14:30

場所: 西土佐ふれあいホールへ集合、参加対象: 小学生以上・保護者等

内容: 午前中は、ふれあいホールでミニ講演を行います。

午後は、同村江川の立川にて広葉樹(ケヤキ・桜)の植樹を行います。

※天候不順の時は 3 月 17 日に変更。確認は、当日朝 7 時頃に西土佐村役場へ。

詳細については、西土佐村総務課企画振興係、または産業課林業係まで

TEL 0880-52-1111(代)、FAX 0880-52-2124

清流通信「四万十川物語」

第62章(平成14年3月10日)

送信者: 高知県 四万十川流域振興室

Tel (088)823-9795 Fax(088)823-9296 E-mail shimanto@pref.kochi.jp

「流域の共同戦略」

みなさまお元気でしょうか。高知での桜の開花予想は17日です。四万十川にも春らんまんの季節がやってまいります。ぜひ、四万十川にお出掛けください。

環境保全や地域づくりにあたって、河川流域や流域圏を共通項とする取組が全国で行われています。今回は、四万十川流域での自治体の共同戦略をご紹介します。

県が昨年3月に四万十川条例を制定したことから、流域の8市町村も県条例と相互に補完を図るため“市町村統一条例”づくりを進めてきました。この3月議会に、中村市をはじめ5市町村が“市町村四万十川条例案”を提案もしくは、提案の予定です。5市町村それぞれに独自色を持たせた部分もありますが、概ね統一した内容となっています。ほかの町村も6月議会に条例案を提案する意向を持っています。

条例案では、流域市町村が四万十川保全の共通認識を持って水環境、景観、生態系の保全を基礎とした生活、文化及び歴史の豊かさを確保する、としています。共通認識として、人と自然との共生を図ること、など5項目が掲げられ、市町村が果たすべき役割として、清流が保たれ、人とかかわりの文化が保たれていることなど、9項目が実現されるよう方策を実施するとしています。また、成果を把握するための指標や環境配慮指針の策定など3項目を基本方策とし、さらに、公共下水道等からの排水水質についての共通の水質基準の設定や、ゴミの散乱等防止のためのキャンプ場指定ができること、講じた方策の成果の公表や住民への情報提供などを規定しています。

四万十川総合保全機構を構成する8市町村は、平成12年11月から平成13年12月まで担当者による条例研究会を10回ほど開催しています。四万十川の現状についての基本認識や課題を議論し、共通項目や独自項目の整理を重ねてきました。例えば、タタキ台には入っていたものの、実現困難だとして最終的には見送られた項目や、たたき台には入っていなかった項目が議論が進むにつれて大きな課題と認識され、最終的に盛り込まれたものなどがあり、流域の自治体が四万十川についての共同戦略を考えるうえで大きな意味がありました。四万十川の恵みを後世に引き継ぐとする条例案は流域の共同戦略であるとともに、現代世代と未来世代が四万十川の保全について意志決定を共有するシステムともなります。

はた・エコツーリズム・セミナー

2002年は国連の「国際エコツーリズム年」。観光を通じて地域の自然や文化、歴史的遺産などの素晴らしさを分かち合い、保護・保全や地域振興に結びつける「エコツーリズム」の推進を目的とするセミナーが、高知県大方町で開催されます。

日時:平成14年3月15日(金)13:30～

場所:高知県大方町入野 6931-3「大方あかつき館」

参加申し込み・問い合わせ:砂浜美術館事務局 TEL・FAX: 0880-43-4915

E-mail: nitari@mb.gallery.ne.jp

13:30～ 意見交換会(四万十楽舎等の団体の代表者による意見交換会が公開されます)

15:40～ セミナー 講演:屋久島野外活動総合センター代表 松本 毅 氏

トーク 進行:梅原 真 氏・JTB企画担当課長 角田純子 氏・松本 毅 氏